

陳情受理番号15番「国立病院の機能強化を求める陳情書」不採択に対する反対討論

日本共産党栃木県議団の野村せつ子です。私は陳情受理番号15番「国立病院の機能強化を求める陳情書」不採択に反対する立場から討論します。この陳情は国立病院機構2病院などの労働組合から提出されたものです。新型コロナ患者受け入れの先頭に立ち、感染の不安とたたかいながら休むことなく頑張っておられる医療現場からの陳情として、議会は重く受け止める必要があると考えます。しかし、生活保健福祉委員会に置いては慎重審議することなく不採択とされたことに驚きと怒りを禁じえません。

厚生労働省は、地域医療構想により、公立・公的病院の病床削減と統廃合を促進させるため436病院を再編リストとして公表し、そのなかに国立宇都宮病院が含まれています。同病院は県内の結核診療の中心的役割を担い、新型コロナ感染症対応の病床も創設しています。その統廃合や病床削減は、国立栃木病院はもとより県全体の医療提供体制に大きく影響し、県民のいのちにかかわる問題です。さらなる機能強化こそ必要です。意見書案に示されているように、国立病院機構病院の診療・研究にかかわる経費を増額し、感染症や大規模災害に十分な医療機器と人員で対応できるようにすることはまさに国の責任です。にもかかわらず、今このコロナ禍においても、医療費削減のために、地域医療構想の推進を都道府県に強いる国の姿勢が厳しく問われます。なお地域医療構想はコロナ発生前の構想であり、これ自体の見直しと再編リストの撤回を強く求めるものです。本陳情の採択は県民益にかなうものであり、採択を強く求め、不採択に対する反対討論といたします。